

# 3. 個に応じた 教育評価の考え方

京都大学大学院教育学研究科・准教授  
奥村 好美

# 0. 個別化・個性化教育をめぐる (1) 近年の教育政策

## 4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

- ◆ 全ての子どもたちの知・徳・体を一体的に育むため、これまで日本型学校教育が果たしてきた、①学習機会と学力の保障、②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障、③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障を学校教育の本質的な役割として重視し、継承していく
- ◆ 教職員定数、専門スタッフの拡充等の人的資源、ICT環境や学校施設の整備等の物的資源を十分に供給・支援することが国に求められる役割
- ◆ 学校だけでなく地域住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となって子どもたちの成長を支えていく
- ◆ 一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、**どちらの良さも適切に組み合わせる**生かしていく
- ◆ 教育政策のPDCAサイクルの着実な推進

全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現のための改革の方向性

### (1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する

- 子どもたちの資質・能力をより一層確実に育むため、基礎学力を保障してその能力を十分に伸ばし、社会性等を育むことができるよう、学校教育の質を高める
- 学校に十分な人的配置を実現し、1人1台端末や先端技術を活用しつつ、多様化する子どもたちに対応して個別最適な学びを実現しながら、学校の多様性と包摂性を高める
- ICTの活用や関係機関との連携を含め、学校教育に馴染めないでいる子どもに対して実質的に学びの機会を保障するとともに、地理的条件に関わらず、教育の質と機会均等を確保

### (2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する

- 校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化を図るとともに、学校内外との関係で「連携と分担」による学校マネジメントを実現
- 外部人材や専門スタッフ等、多様な人材が指導に携わることのできる学校の実現、事務職員の校務運営への参画機会の拡大、教師同士の役割の適切な分担
- 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、相互に連携・協働して、地域全体で子どもたちの成長を支えていく環境を整備
- カリキュラム・マネジメントを進めつつ、学校が家庭や地域社会と連携し、社会とつながる協働的な学びを実現

### (3) これまでの実践とICTとの最適な組み合わせを実現する

- ICTや先端技術の効果的な活用により、新学習指導要領の着実な実施、個別に最適な学びや支援、可視化が難しかった学びの知見の共有等が可能
- GIGAスクール構想の実現を最大限生かし、教師が対面指導と遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリッド化）ことで、様々な課題を解決し、教育の質を向上
- 教師による対面指導や子ども同士による学び合い、多様な体験活動の重要性が一層高まる中で、ICTを活用しながら協働的な学びを実現し、多様な他者とともに問題発見・解決に挑む資質・能力を育成

### (4) 履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる

- 修得主義や課程主義は、個人の学習状況に着目するため、個に応じた指導等に対する寛容さ等の特徴があるが、集団としての教育の在り方が問われる面は少ない
- 履修主義や年齢主義は、集団に対し、ある一定の期間をかけて共通に教育を行う性格を有し、一定の期間の中で、個人々の成長に必要な時間のかり方を多様に許容し包含する一方、過度の同調性や画一性をもちやす可能性
- 義務教育段階においては、進級や卒業の要件としては年齢主義を基本としつつも、教育課程の履修を判断する基準としては履修主義と修得主義の考え方を適切に組み合わせ、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」との関係も踏まえつつ、それぞれの長所を取り入れる
- 高等学校教育においては、その特質を踏まえた教育課程の在り方を検討
- これまで以上に多様性を尊重、ICT等も活用しつつカリキュラム・マネジメントを充実

### (5) 感染症や災害の発生等乗り越えて学びを保障する

- 今般の新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、新たな感染症や災害の発生等の緊急事態であっても必要な教育活動の継続
- 「新しい生活様式」も踏まえ、子供の健康に対する意識の向上、衛生環境の整備や、新しい時代の教室環境に応じた指導体制、必要な施設・設備の整備
- 臨時休業時等であっても、関係機関等との連携を図りつつ、子どもたちと学校との関係を継続し、心のケアや虐待の防止を図り、子どもたちの学びを保障する
- 感染症に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さない
- 首長部局や保護者、地域と連携・協働しつつ、率先して課題に取り組み、学校を支援する教育委員会の在り方について検討

### (6) 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する

- 少子高齢化や人口減少等で社会構造が変化中、学校教育の持続可能性を確保しつつ魅力ある学校教育の実現に向け、必要な制度改正や運用改善を実施
- 魅力的で質の高い学校教育を地方においても実現するため、高齢者を含む多様な地域の人材が学校教育に関わるとともに、学校の配置や施設の維持管理、学校間連携の在り方を検討

4

（中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して  
～すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（2021年1月26日）

### 3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

#### ① 個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

#### 指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、  
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現  
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

#### 学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

### それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

#### ② 協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す

- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

2

（中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して  
～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（2021年1月26日）

## (2) 個別化・個性化教育とは

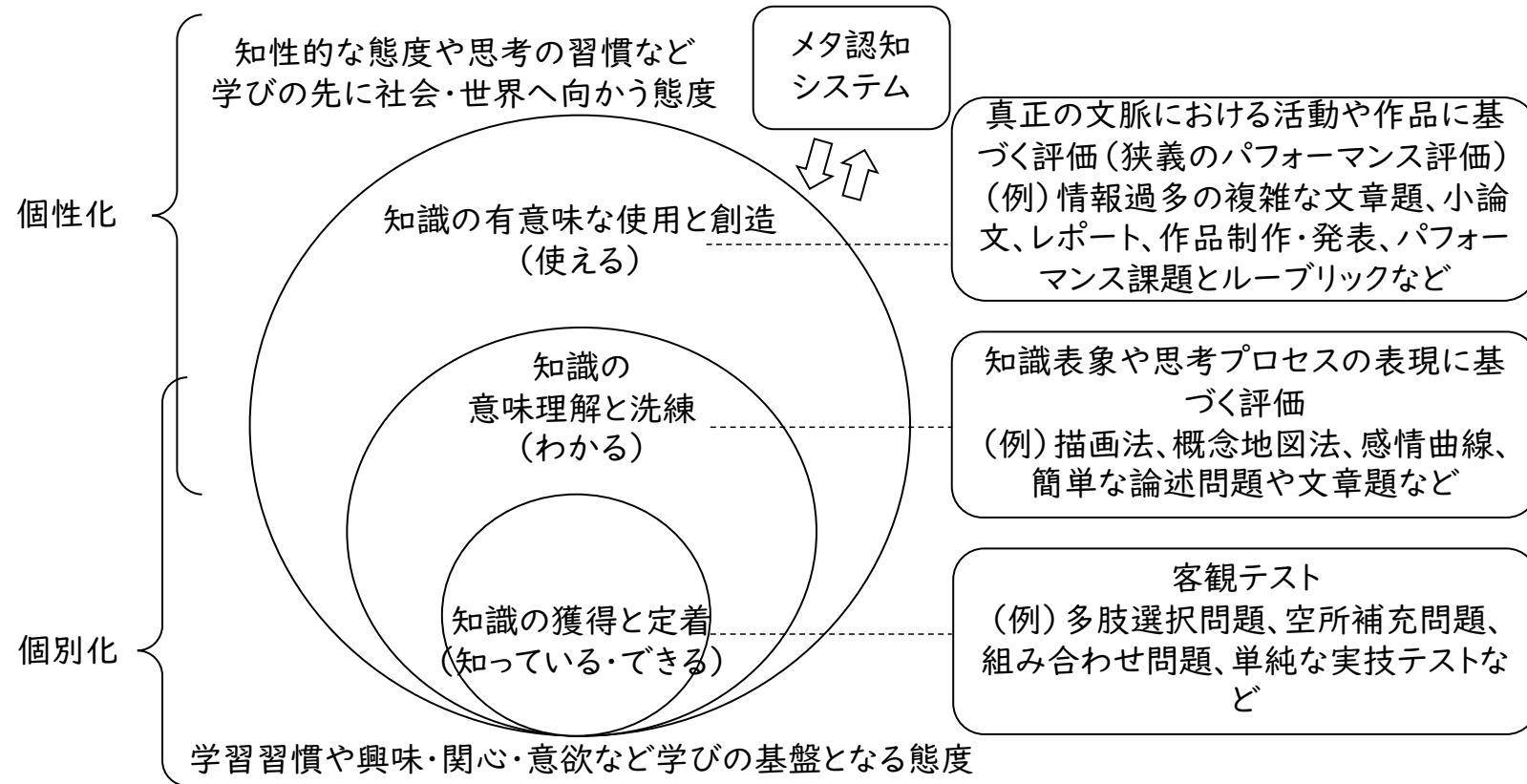
### 個別化

主に量的個人差に対応  
する考え方

### 個性化

主に質的個人差を含めて  
子どもの全体性を視野  
に入れて行われる柔軟  
な対応や、子どもの自  
主性や自発性を尊重す  
る考え方

# (3) 教科と総合学習における個別化・個性化教育と親和性の高い学力・学習の質と評価方法



(石井英真『未来の学校』日本標準、2020年; 石井英真「今後の教育課程の在り方について」今後の教育課程、学習指導、学習評価等の在り方に関する有識者検討会、2023年7月12日などを参考に作成)

# 1. 「逆向き設計」論と「個に応じること」 (1) 「逆向き設計」論とは何か

「本質的な問い」  
「永続的理解」

## 1. 教育目標

求められている結果  
を明確にする  
\*使えるレベル  
まで意識する

### 「理解の6側面」

- ・ 説明する
- ・ 解釈する
- ・ 応用する
- ・ パースペクティブ(俯瞰)を持つ
- ・ 共感する
- ・ 自己認識を持つ

## 2. 教育評価

学習者が目標を達成し  
たかどうかを評価でき  
るような方法を考える

## 3. 学習経験と指導の 計画

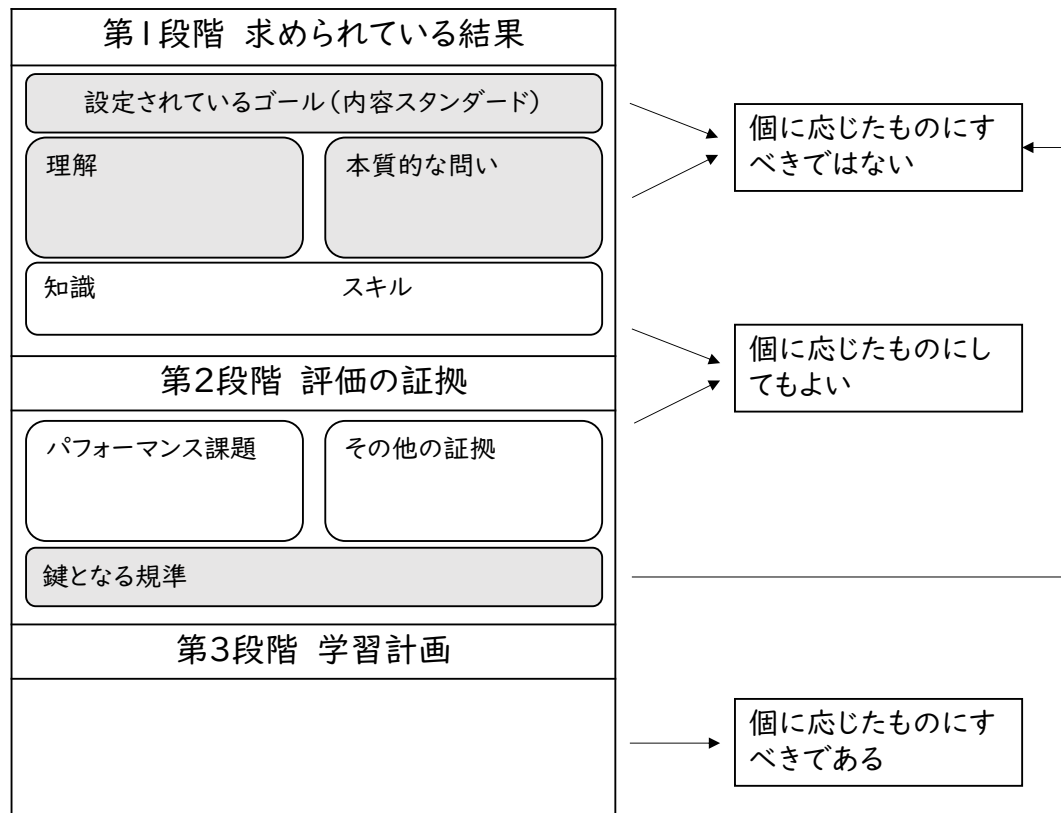
目標が学習者に達成  
されるためにどんな学  
習経験が必要かを考  
えて一連の授業を作る

単元設計→長期的な指導計画の設計

(奥村好美、西岡加名恵(編著)『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年)

- カリキュラム設計にあたって、教育目標、評価方法、学習経験と指導を三位一体のものとして設計することを提案するもの。
- 「逆向き」と呼ばれる理由：
  - ①単元末や学年末といった最終的な子どもたちの姿から遡って(逆向きに)単元が設計されるため
  - ②時に授業の後で考えられがちであった評価方法を含めて事前に単元を設計することが求められるため
- 学習者の視点での設計

## (2) 「逆向き設計」論において 「個に応じること (differentiation)」



その単元(カリキュラム)の中核にあたる「本質的な問い」と「(永続的)理解」、それらと対応する「鍵となる評価規準」は、基本的に個に応じて変えるべきではない

⇒何を長期的に子どもたちに保障する必要があるのかを明確にしておくことで、診断的・形成的評価を行いやすくなり、かえって指導を行う際に柔軟に個に応じてやすくなる

## (3) 個に応じて設計された実践事例 体育「走り高跳び」(陸上領域)(小6)

個に応じたものにするべきではない

### 本質的な問い

はさみ跳びでより記録を伸ばすには、どのような体の使い方をすればいいのだろうか。

### 永続的理解

記録を向上させるためには、4つの局面①リズムカルな助走(最後の3歩のリズムアップ)②力強い踏み切り(足裏全体を使う・しずみこみ)③空中動作(振り上げ足を上体に引き付ける・上体をねじるように抜き足を引き付ける)④安全に着地(膝を柔らかく使い振り上げ足から着地)の全てをスムーズに行うことが大切である。そのため局面のみだけでなく、局面と局面のつながりに注目すべきである。

また、動きを考えるためには、「する」だけでなく、客観的に「みる」ことが必要である。

※「局面のつながり」は次のとおりである。

- ・助走～踏み切り:歩幅の変化・沈み込みの動き・踏切り位置
- ・踏み切り～空中姿勢:目線・上体の姿勢・振り上げ足の動き・腕の振り上げ
- ・空中姿勢～着地:抜き足の動き・振り上げ足からの着地

個に応じたものにしてもよい

### パフォーマンス課題

あなたは、走り高跳びのコーチです。選手（自分）が記録向上のために「特に」意識した局面、または局面と局面のつながりを説明し、どのような練習で上達したのか紹介しましょう。また、より記録向上させるためのアドバイスもしましょう。

①助走・踏み切り・空中姿勢・着地の4曲面から、特に意識した局面や、局面と局面のつながりの動きの説明と取り組んだ練習方法

②より記録向上させるためのアドバイス

①・②について1分間以内にまとめてください。

分かりやすく説明するために、実技（自分）を再生しながら説明しましょう。

個に応じたものにすべきである

### 学習経験と指導の計画

- 1 目標を共有し、安全な着地について考えた後基準の記録に挑戦
- 2~3 動きの4局面のうち着地以外の3局面から練習する局面を選び、グループで協力して練習する（\*着地は常に意識）
- 4 記録会
- 5 パフォーマンス課題

## 2. パフォーマンス課題で個に応じる (1) 興味・関心に応じる

### ・複数のテーマ・立場から選択する

(例) 社会「中国・四国地方」(地理的分野)(中2)

あなたは(A: 広島市の市長・B: 高知県の知事 ※選択)に頼まれて、もっと(A: 広島市・B: 高知県)を住みやすくするにはどうすれば良いか、アイデアを出すことになりました。広島市の市長は過密問題、高知県の県知事は過疎問題で困っています。学んだことを活かして、あなたの考えをレポートにまとめましょう。その際に、その地域の特徴、過疎・過密問題で困っていること、解決のアイデアとその効果を必ず入れましょう。

### ・自分の好きなものを選ぶ

(例) 外国語「分詞」(高2)

ここにみなさんの学校生活を撮った写真があります。自分の好きな写真を選んで、その中に写っている人が何をしているのかを、学習した『現在進行形』や『受動態』を使って表現してください。

(奥村好美、宮田佳緒里「中国・四国地方一都市と農村の変化と人々の暮らし(社会科・中学校2年)」西岡加名恵、田坂繭子、鎌田祥輝『「スタンダード作り」基礎資料集(第2集)』京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM共同研究プロジェクト【プロジェクトS】、2017年8月、pp.69-72 ;西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子、京都府立園部高等学校・附属中学校(編著)『パフォーマンス評価で生徒の『資質・能力』を育てる』学事出版、2017年)

## (2) 表現の得意・不得意に応じる

- ・表現の選択肢を増やすことも可能

### 筆記

- ・研究レポート
- ・ニュース記事

### 視覚

- ・ポスター
- ・パワーポイント

### 口頭

- ・発表
- ラジオ・インタ  
ビュー

どのように個に応じたとしても、  
「理解」を評価する「鍵となる規準」は共通である必要性

### 3. 学習経験と指導の計画で個に応じる (1) 注意事項

ゴロ合わせ	ポイント	英語
は: はっきりとした見通しを与え、	パフォーマンス課題のイメージをつかませる	Where, Why, What
ひ: 一人一人を惹きつける。	意欲がわくような工夫をする	Hook, Hold
ふ: 不安がないよう用意させ、	パフォーマンスに必要な知識(概念)やスキル(プロセス)を身につけさせる	Equip, Explore
へ: <u>下手なところは改めさせる。</u>	<u>やり直す機会、練り直す機会を与える</u>	Rethink, reflect, revise
ほ: <u>本人に自覚を促す自己評価。</u>	<u>正確に自己評価できるように指導する</u>	Evaluate
と: <u>ところで個人差、どうするか?</u>	<u>一人一人の習熟度や興味・関心に配慮する</u>	Tailored
さ: 最後に全体、見渡そう。	学習活動を魅力的・効果的に配置する	Organized

## (2) 個に応じる教育評価のポイント 「学習経験と指導の計画」チェックリスト(一部抜粋)

- (へ) 子どもたちには、この単元を学習する以前の考え方をとらえ直したり、この単元によって自分が理解しつつあることを考え直したりする機会が与えられている。
- (へ) 子どもたちには、フィードバックや指導にもとづいて、自分の作品や発表を修正する機会が与えられている。
- (ほ) 個人やグループでの学習の進行状況について、随時、評価する機会がある(自己評価を含む)。
- (と) 子どもたちの興味や学習スタイルや能力は多様である。それに応じて学びを個性化するために、学習内容や学習プロセスやパフォーマンス課題は調整されるだろう。

### (3) フィードバックのポイント

- 時宜にかなっており、継続的であること
- 具体的に伝える
  - 単なる賞賛や叱責×
  - モデル(模範例)を提示したりルーブリックを活用したりすることも  
～具体的な特徴を示しつつパフォーマンスの質を伝えられるようなルーブリックであることがポイント。ルーブリックと作品例を合わせて示すことも◎
- 学習者の自己評価や自己調整を可能にすること

\*ゴールや規準・基準を具体的に学習者と共有することで、学習者同士の相互評価を通じたフィードバックを活用することも

## (4) ルーブリックの共有

- 直接提示:ルーブリックを直接子どもに提示する方法。  
～アンカー作品を提示するなどの工夫。
- 間接提示:ルーブリックそのものは子どもに提示せず、別の形で評価規準・基準を共有する方法。  
～作品批評会の実施など。

## (5) 作品批評会の事例 理科「植物の観察記録」(小4)

### 作品批評会の流れ

- ①年度初めの作品と最近の作品を2つずつ映し出して「年度初めの作品とその後の作品を比べてみると、どんなところが良くなっているかな？」などと問いかけた。
- ②子どもたちから出てきた評価規準を板書に整理した。
- ③板書をプリントに整理し直して配布した。
- ④子どもたちはプリントの評価規準に照らして自分の作品例を振り返り、到達した規準には青で日付を、次の目標として意識したいポイントには赤で丸をつけた。

## 4. ポートフォリオ評価法 (1) ポートフォリオ評価法とは

### ポートフォリオとは？

子ども・青年の作品(work)や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などをファイルや箱などに系統的に蓄積していくもの。

### ポートフォリオ評価法とは？

ポートフォリオづくりを通して、子ども・青年らが自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も子ども・青年の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

学習者が生み出した作品(写真や映像を含む筆記・実演での学習過程の記録や成果物など)が蓄積されるため、  
個を活かした評価を実施しやすい

## ◎検討会の進め方

- ① 問いかけによって、学習者の自己評価を引き出す。
- ② 学習者の言葉に耳を傾ける（待つ）。
- ③ 達成点を確認し、いいところを褒める。
- ④ 具体例の比較を通して、目標・評価規準（基準）を直観的につかませる。
- ⑤ 次の目標について、合意する。
- ⑥ 確認された達成点と課題、目標についてメモを残す。

※一斉授業（作品批評会、中間検討会など）の形で  
行うのでもOK



## (2) ポートフォリオ検討会での対話の例 高等学校・探究の例 (イメージ。大貫守氏作成の資料を参考にした)

先生「山田さんは、ペットボトルロケットについて調べているんだよね。進捗はどう？」

生徒「あんまり良く進んでないんです。なんだか行き詰まっている感じで…。」

先生「どんなところに行き詰まっているのかな？」

生徒「ん～[しばらく沈黙。教師は待つ]。何をしたら良いのかよくわからなくなって…、ペットボトルロケットをただ飛ばしているだけのようで…。」

先生「山田さんは、テレビで見て、よく飛ぶペットボトルロケットが作れたら、エコな仕組みを考えられそう、と思ったんだね。今まで、どんなことに取り組んできたのかな？」

二人で研究ノートに書かれた内容について振り返る。



(続き)

生徒「先行研究を読んでもみると、遠くに飛ばすために羽やペットボトルの形、羽の位置や空中での回転の仕方が影響すると書いてあるんですが、僕のロケットはいつも空中で水平飛行にならず、飛距離も出なくなってしまうんです」

先生「山田さんは、何回もペットボトルロケットを飛ばしながら空中での機体の傾きや羽の形との関係について既にキチンとしたメモを残しているね。これは素晴らしいことだよ。どんな工夫をすれば、水平飛行になりそうかな？」

生徒「まずは、羽の位置と形かなあ…。でも、よく飛ぶって書いてある本を片っ端から見て羽の形は変えたりしているけど、よくわからなくなっちゃった。」

先生「羽の形を飛行機や鳥の翼、実際のロケットの仕組みを参考にしてみると面白いものができそうだね。なぜその羽の形や位置で良く飛ぶのかという仕組みを考えてみたらどうかな？そのときには、ロケットの重心や回転にこだわってみてもよいかもしれないね。」

生徒「そういうことなら、何とかできそうかな。」

二人は話し合った内容についてメモを残す。

### (3) ポートフォリオ検討会での対話の例 小学校・総合学習の例

宮本先生：[自分のノートのメモを見ながら] 城山にどんな虫がいて、どんな成長をしているか、どんな暮らしをしているか、それを調べたいということだったね。優子さんの素晴らしかったのは、虫かごと網をちゃんと用意していったことだったね。

達也：虫かごは僕。

宮本先生：実際やってみて難しいなと思ったことは何だった？ [しばらく待つ。達也と優子は、自分のポートフォリオを見直し始める] 一番の悩みは何？

優子：蝶ばかりで、他の虫も探してみたけど、死んでいたりして、見つからなかった。

達也：[ポートフォリオの中から城山の地図を取り出して指差しながら] 先生、だいたいこういうところをずっとまわってきたけど、まずここらには何にもいなくて、ここらは普段は蝶とかカナブンとかいるところなんだけど、最初に行った時にはいなくて蝶一匹もいなかったから、だからここはまだいないのかなということ諦めて、下に行ったんだけど……。[中略]

宮本先生：なんか、蝶の動きが気まぐれで [ノートにちょっとメモを取る]、調べるってことができないという感じなんだね。

達也：そう。[優子もうなずく]

(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.200;宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年も参照)

(続き)

宮本先生：調べるための裏ワザがいるね。色々考えることができそうだね。[明美の「わかった」というつぶやきを聞きつけ] わかった？ どんな裏ワザ？

明美：わかったっていうか、多分、蝶が出たときに温度測っというて、でな、また次に見つけたときにも温度測っというて……

達也：[息をのんで] それでだいたい見当をつけるのか！

宮本先生：今、明美さんが言ってくれたことは、一つの方法だね。[徹、手を挙げる] 徹君から意見？ [徹、うなずく] はい。

徹：[勢いづいて] スイカとか食べるものの食べ方とか吸い方なんだけど、餌とかでおびき寄せて、虫眼鏡で口はどんな風とかを書いていってもいいと思う。

達也：ああ、そうかあ！

宮本先生：なるほど。実は、徹君が言った絞り込み方と、明美さんが言った絞り込み方と、達也君たちが考えていた絞り込み方とでは、研究のねらいが違うのよ。徹君が言った吸い方とかを観察するっていうのは、一匹の虫の食べ方とか特徴や動き。達也君たちののは、虫がどこに現れるか、温度とか風とかとの関係などだね。

[この後、宮本先生は、目的に応じて調べ方を選ぶ必要があると伝える。また、虫を調べるためには、野外で虫を調べるだけでなく、虫について書かれた本を図書室で調べることもできる、と助言した。]

(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.200;宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年も参照)

## 主要参考文献

- 石井英真『未来の学校』日本標準、2020年
- 奥村好美、西岡加名恵（編著）『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年
- 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年
- 西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子、京都府立園部高等学校・附属中学校（編著）『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる』学事出版、2017年
- 西岡加名恵、石井英真（編著）『Q&Aでよくわかる!見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2018年
- 西岡加名恵（編著）『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年
- 宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年
- C.A. Tomlinson and J. McTighe, *Integrating Differentiated Instruction & Understanding by Design: Connecting Content and Kids*, Alexandria: ASCD, 2006
- G. Wiggins, *Educative Assessment: Designing Assessments to Inform and Improve Student Performance*, California: Jossey-Bass, 1998